

医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ (修士論文コース)

	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
共通科目	必修科目 2科目(4単位)			
8単位	看護理論(2単位) 看護研究法(2単位)			
	選択科目 2科目(4単位)			
	看護倫理(2単位) フィジカルアセスメント(2単位) 病態生理学(2単位) 看護コンサルテーション論(2単位)	看護情報統計学(2単位) 国際比較看護論(2単位) 臨床薬理学(2単位)		
専門科目	選択科目 4科目(8単位)			
8単位	看護教育学特論(2単位) 看護教育学演習Ⅰ(2単位)	看護教育学演習Ⅱ(2単位) 看護生涯教育論(2単位)*		
	看護管理学特論(2単位)* 看護管理学演習Ⅰ(2単位)	看護政策論(2単位)* 看護管理学演習Ⅱ(2単位)		
	実践基礎看護学Ⅰ(2単位)* 実践基礎看護学Ⅱ(2単位)*	実践基礎看護学Ⅲ(2単位) 実践基礎看護学Ⅳ(2単位)		
	がん看護対象論Ⅰ(2単位)* がん看護対象論Ⅱ(2単位) がん看護対象論Ⅲ(2単位)	がん看護援助論Ⅰ(2単位) がん看護援助論Ⅱ(2単位) がん看護援助論Ⅲ(2単位)		
	成人看護学対象論Ⅰ(2単位) 成人看護学対象論Ⅱ(2単位)	成人看護学援助論Ⅰ(2単位) 成人看護学援助論Ⅱ(2単位)		
	母性看護・助産学対象論(2単位) 母性看護・助産学援助論(2単位) 母性看護・助産学特論Ⅰ(2単位)	母性看護・助産学特論Ⅱ(2単位)		
	小児看護学対象論(2単位) 小児看護学特論Ⅰ(2単位)	小児看護学援助論(2単位) 小児看護学特論Ⅱ(2単位)		
	老年看護学特論Ⅰ(2単位)* 老年看護学特論Ⅱ(2単位) 老年医学特論(2単位)* 老年看護学特論Ⅲ(2単位)	老年看護学特論Ⅳ(2単位)		
	精神看護学対象論(2単位) リエゾン精神看護(2単位)	精神看護学援助論(2単位) 精神看護学特論(2単位)		
	地域看護学対象論(2単位) 地域保健学特論Ⅰ(2単位)	地域看護学援助論(2単位) 地域保健学特論Ⅱ(2単位)		
共通/専門科目	選択科目 2科目(4単位)			
4単位	共通科目(選択科目)および専門分野を越えて選択可能な専門科目より2科目(4単位)以上			
特別研究	看護学特別研究(10単位)			
10単位		↑ 研究計画発表		↑ 研究経過発表
合計				
30単位				

*は、専門分野を越えて選択可能な専門科目

		到達目標	DP1		DP2		DP3	
			知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
共通科目	看護理論	1. 看護研究を行う上での看護理論の必要性と有用性について述べることができる。 2. 看護実践の基盤となる看護学における諸理論を用いて、看護の実践上の現象を考察することができる。	◎		○		○	
	看護研究法	1. 看護研究の概念および意義が理解できる。 2. 看護研究の一連のプロセスが説明できる。 3. 看護における代表的な研究方法について理解できる。 4. 看護の視点から研究論文を系統的に検討することができる。 5. 看護研究における倫理的配慮の必要性および研究倫理審査申請書作成時の留意点を説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○
	看護倫理	1. 看護倫理学の発展における歴史上の問題についての知識を得る。 2. 医療現場で遭遇する諸問題について倫理的意思決定モデルを使用して検討できる。	◎	◎	◎	◎	○	○
	看護情報統計学	看護における研究の枠組みに従った的確な量的研究方法を提示できる。 情報の収集・分析のための知識・技術を利用し、課題データを用いたレポートが作成できる。	◎	○	◎	○		
	国際比較看護論	1. 国際的視点から看護学を比較する意義や方法を理解できる。 2. 各国の看護に関連する現象を文化や価値観を考慮しながら国際比較できる。 3. 国際看護学の課題と将来展望を説明できる。	○		○		◎	○
	フィジカルアセスメント	1. 健康関連のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と基本となる概念を理解する。 2. 健康歴聴取および適切なフィジカルアセスメント技法を習得する。 3. 身体の系統的で客観的な評価から得られた所見を総合し、対象者を包括的に判断・解釈する方法を理解する。 4. 看護判断・診断に必要な情報を収集し、得た情報を統合的に判断する過程を習得する。 5. フィジカルアセスメントに必要とされる診察機器を理解し、演習で使用してみる。	◎	◎	○			○
	病態生理学	人間の病態機能について、自ら問題点を抽出し、科学的に探究する能力を身につけることが到達目標である。	◎		○		○	
	臨床薬理学	1. 医薬品情報の種類、特徴、利用方法について説明できる。 2. 薬物体内動態の概念とその制御因子について説明できる。 3. 薬物相互作用の概要について説明できる。 4. 主な慢性疾患の薬物治療（自己免疫性疾患、糖尿病、造血器腫瘍、循環器疾患、疼痛緩和、肝疾患、感染症）の概要について説明できる。 5. 薬剤使用時のアセスメントや判断、投与後の患者モニタリングについて説明できる。 6. 生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力向上などの看護アプローチについて立案できる。	◎		○		○	
看護コンサルテーション論	1. コンサルテーションの目的と基本的な考え方を理解することができる。 2. コンサルテーションのタイプとモデルを理解することができる。 3. コンサルタントの役割を理解することができる。 4. コンサルテーションの展開方法を理解することができる。 5. コンサルテーションの知識・技術・態度を実践にいかすことができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	
専門科目	看護教育学特論	1. 教育学の基礎理論を学習し、看護職者が教育的機能を果たすための基盤となる知識を得る。 2. 看護基礎教育の教育制度の変遷を学び、基礎教育に求められる教育内容を理解する。 3. 教育方法や教育評価の基礎を学び、看護基礎教育で行われている教育応用することができる。	◎	○	○		◎	○
	看護教育学演習 I	1. 看護学教育に関する文献を系統的に検索することができる。 2. 看護学教育に関する文献を要約し、論点を報告することができる。 3. 看護学教育に関する文献を批判的に検討し、テーマに対して自らの意見を述べるができる。 4. 看護学教育に関する研究課題を設定し、検討した文献レビューとしてまとめることができる。	◎	○	◎	◎	○	○

	到達目標	DP1		DP2		DP3	
		知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
看護教育学演習Ⅱ	1. 看護教育学演習Ⅰで実施した文献レビューから独自性のある研究課題を設定することができる。 2. 研究目的を達成するための研究方法を検討し、研究計画書を作成することができる。 3. 研究における倫理的考慮事項を学び、研究計画書を倫理審査に申請することができる。 4. 研究データを収集し、結果・考察としてまとめることができる。 5. 一連の研究プロセスを論文として集約し、看護学教育研究の課題や限界を考察できる。	○	◎	◎	◎	◎	○
看護生涯教育論	1. 看護教育を生涯教育の視点から理解する。 2. 成人学習の理論や方法を学び、成人学習者の特徴を理解する。 3. 看護継続教育の実際を検討し、教育の質を高めるための課題を提示できる。	◎	◎	○		○	◎
看護管理学特論	1. 看護マネジメントの本質と特徴および関連する諸理論や技法を理解し探究する。 2. チームにおける看護と他職種との協働・連携について説明することができる。 3. 保健・医療・福祉の協働・連携について説明することができる。 4. 看護管理の視点からみた看護職・専門看護師の人的資源管理について自分の意見を述べるができる。 5. 看護の質向上に寄与する経営経済的視点から看護マネジメントを探究する。	◎	◎	○		◎	◎
看護管理学演習Ⅰ	1. 文献レビューの方法について説明することができる。 2. 手順に従って自分の研究課題に関連する研究論文を検索・入手することができる。 3. 看護学の発展や課題の解決に焦点を当てた研究の背景・意義を記述することができる。 4. 一覧表に整理した個々の研究の情報を比較・対比することができる。 5. 関心領域における最新研究論文を精読し、クリティークができる。 6. 関心領域における主要概念について説明ができる。 7. 自分の研究課題に関連する研究の特徴および知識のギャップを記述することができる。 8. 英語論文の読解ができる。 9. 修士論文執筆に向けた自身の研究テーマの選定ができる。 10. 具体的かつ実現可能な研究目的、研究疑問または、仮説を計画11. 研究目的、研究疑問、仮説に合致した研究方法を計画することができる。 12. 研究対象者の尊厳と権利を擁護するための配慮について計画することができる。	◎		◎	◎	○	○
看護管理学演習Ⅱ	1. 看護学の発展や課題の解決に焦点を当てた研究の背景・意義を記述することができる。 2. 研究計画の手順に従って研究参加者からデータを収集することができる。 3. 研究計画の手順に従ってデータの分析ができる。 4. データの分析結果を研究目的、研究疑問、または仮説に対応する形で研究結果として記述することができる。 5. 研究結果を文献レビューの内容等と比較・対比し、結果の解釈、実践への示唆、研究の限界を記述することができる。 6. 研究の背景から考察までを研究論文の形で統合することができる。 7. 学問的な誠実さ(academic integrity)の重要性に気づくことができる。	◎		◎	◎	○	○
看護政策論	1. 看護行政の仕組みと政策過程・政治過程について説明できる。 2. 看護にかかわる具体的な政策について、その概要と政策過程への参画について説明できる。 3. 看護政策上の課題を示し、その解決に向けた方法を提案することができる。	◎	○	○		○	
実践基礎看護学Ⅰ	1. 生態看護学の一環としてのリハビリテーション看護について理解できる。 2. 疾患ではなく症状や訴えから患者を診ることの意義を理解できる。	◎		○		○	
実践基礎看護学Ⅱ	1. 質的研究のサブストラクションができる。 2. 量的研究のサブストラクションができる。 3. 実践活動の中から研究テーマを設定できる。	◎		○		○	
実践基礎看護学Ⅲ	研究テーマを明確化し、研究計画書を作成することができる。	○	◎	○	◎		○
実践基礎看護学Ⅳ	1. 修士論文の研究計画書を作成できる。 2. 国内外の学会において、ポスターセッションと口述発表をすることができる。	○	◎	○	◎		○
がん看護対象論Ⅰ	1. がん発生の病態生理について理解する。 2. がん予防および早期発見に対するエビデンスを理解する。 3. 主ながんについて、病態生理、診断、そして治療について理解する。 4. がん薬物療法、放射線治療、ゲノム医療について理解する。 5. がんの進行に伴う身体的・精神的症状の病態生理を理解する。 6. がん治療に関する知識を基盤に、がん看護専門看護師としての役割について理解する。	◎	○	○	○	○	○

	到達目標	DP1		DP2		DP3	
		知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
がん看護対象論Ⅱ	1. がん看護の主要な概念および理論(QOL、危機理論、ストレス・コーピング理論、病みの軌跡モデル、病気の不確かさ理論、セルフケア、ストレングス・ウェルネス志向、協働的パートナーシップ、等)について説明できる。 2. いくつかの概念および理論を、実際に自身が体験した事例に適用させて事例分析をおこない、看護の展開(アセスメント、看護介入、評価)について討議することにより、看護実践への適用について探究する。	◎	○	◎	○	◎	○
がん看護対象論Ⅲ	1. 「ケアとは何か」「緩和ケアとは何か」について、自身の考えを明確化し、言語化できる。 2. ケアとキュアを統合させた看護について、自身の考えを、言語化できる。 3. がん看護に適用できる看護理論を選択し、文献検討・討議を通して理解する。 4. 看護理論に基づいて、がん患者と家族を全人的にアセスメントするためのフレームを作る。 5. 演習を通して自身の看護観に気づき、がん看護専門看護師としての自己の課題や目標を明確化する。	◎	○	◎	◎	◎	◎
がん看護援助論Ⅰ	1. 症状マネジメントのための統合的アプローチであるIASMをもとに、臨床判断プロセスについて理解する。 2. 痛みや不快な症状を緩和し、QOLを高める看護介入の在り方を理解する。 3. 高齢者が急増する多死社会である我が国において、高齢がん患者が治療とともに、その人らしく生活するための支援について思考する。 4. 様々な集学的治療を担う多職種の中での看護師の役割を理解するとともに、がん看護専門看護師としての役割を明確化する。	◎	○	○	○	◎	○
がん看護援助論Ⅱ	1. がんサバイバーシップ、緩和ケアの概念を理解する。 2. 専門的緩和ケアを担う看護師に必要な知識と援助を修得する。 3. 様々な緩和ケアの提供体制を地域包括ケアと連動させて理解する。 4. 地域包括ケアの中で対象のニーズに合った緩和ケアを提供する能力を修得する。 5. がんサバイバーシップを支えるがん看護専門看護師の役割とその拡大について探究する。	◎	○	○	○	◎	○
がん看護援助論Ⅲ	1. がんサバイバーシップの概念に基づき、看護理論やエビデンスに基づいた看護介入モデルを立案し、評価できる(臨床判断プロセス)。 2. 症状マネジメントモデル(IASM)に基づいた看護介入モデルを計画し、がん看護実習Ⅰで実践し、そのプロセスとアウトカムを言語化できる。 3. がん相談支援技術や、がん患者教育技法について文献学習を通して学び、がん看護実習Ⅰでの実践を通して理解し、そのプロセスとアウトカムを言語化できる。	◎	○	○	○	◎	○
成人看護学対象論Ⅰ	【知識】 1. 健康危機ひいては生命危機の状態であり治療を要する患者を取り巻く状況において、注目する事象を述べる。 2. 注目する事象における患者や家族の直面しやすい課題を述べる。 3. 課題を解決するために探究すべき研究における対象を定め、文献検討を通して、その対象の特性を述べる。 4. 研究において、その対象への接近法や特性を捉える方法を列挙する。 【態度】 1. 述べる内容を、文献的な裏づけに基づいて表現する。 2. 研究の目的を論理的に絞り込み、示す。 3. 調べた内容に対する質問に答えるうえで、蓄積した文献リストやその整理分類資料を活用して答える。 【技能】 1. 系統的な文献検索を行う。 2. 英語文献を含め、収集した論文をクリティカルシンキングの観点で読む。 3. 文献を系統的、機能的に整理分類する。	◎	○	◎	○		
成人看護学対象論Ⅱ	【知識】 1. 健康危機ひいては生命危機の状態であり治療を要する患者を取り巻く状況において、注目する事象を述べる。 2. 注目する事象における患者や家族の直面しやすい課題を述べる。 3. 課題を解決するために探究すべき研究における対象を定め、文献検討を通して、その対象の特性を述べる。 4. 研究において、その対象への接近法や特性を捉える方法を列挙する。 【態度】 1. 現場での経験を語ってくださる当事者に敬意を示すとともに、クリティカルシンキングに基づき、探索的かつ問題解決への建設的姿勢で質問、コメントをする。 2. 述べる内容を、文献的な裏づけに基づいて表現する。 3. 研究の目的を論理的に絞り込み、示す。 4. 調べた内容に対する質問に答えるうえで、蓄積した文献リストやその整理分類資料を活用して答える。 【技能】 1. 系統的な文献検索を行う。 2. 英語文献を含め、収集した論文をクリティカルシンキングの観点で読む。 3. 文献を系統的、機能的に整理分類する。 4. 現場での体験を語ってくださる当事者の話を要約し、語り手の意図と確認しあう。	◎	○	◎	○		

	到達目標	DP1		DP2		DP3	
		知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
成人看護学援助論 I	<p>【知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康危機ひいては生命危機の状態であり治療を要する患者を取り巻く状況において、注目する事象を述べる。 注目する事象における患者や家族の直面しやすい課題を述べる。 課題を解決するために探究すべき研究における対象を定め、文献検討を通して、その対象の特性に適したケア/対応を述べる。 研究において、その対象への適したケア/対応を調査するための実行可能かつ有意義な方法を列挙する。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 述べる内容を、文献的な裏づけに基づいて表現する。 研究の目的を論理的に絞り込み、示す。 調べた内容に対する質問に答えるうえで、蓄積した文献リストやその整理分類資料を活用して答える。 <p>【技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 系統的な文献検索を行う。 英語文献を含め、収集した論文をクリティカルシンキングの観点で読む。 文献を系統的、機能的に整理分類する。 	◎	○	◎	○		
成人看護学援助論 II	<p>【知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康危機ひいては生命危機の状態であり治療を要する患者を取り巻く状況において、注目する事象を述べる。 注目する事象における患者や家族の直面しやすい課題を述べる。 課題を解決するために探究すべき研究における対象を定め、文献検討を通して、その対象の特性に適したケア/対応を述べる。 研究において、その対象への適したケア/対応を調査するための実行可能かつ有意義な方法を列挙する。 <p>【態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 述べる内容を、文献的な裏づけに基づいて表現する。 各種の調査を実施している人の話を聞き、研究の目的を論理的に絞り込み、示す。 調べた内容に対する質問に答えるうえで、蓄積した文献リストやその整理分類資料を活用して答える。 <p>【技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 情報収集補法、分析方法を知り、理解を深める。 系統的な文献検索を行う。 英語文献を含め、収集した論文をクリティカルシンキングの観点で読む。 文献を系統的、機能的に整理分類する。 	◎	○	◎	○		
母性看護・助産学対象論	<ol style="list-style-type: none"> ウィメンズヘルスに関する諸理論について説明することができる。 女性のライフサイクルにおける健康問題を、健康の社会決定要因をもとに説明できる。 	◎		○			○
母性看護・助産学援助論	<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルにおける健康問題への援助について説明できる。 周産期医療の現状と課題について説明し、妊娠・出産包括支援事業の展開について提案できる。 	◎		○			○
母性看護・助産学特論 I	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護学・助産学および関連領域における文献購読を通して、女性の健康を支援するための看護・助産実践方法や研究方法について考察する。 自己の研究課題を設定する。 	○	◎	○	◎		○
母性看護・助産学特論 II	<ol style="list-style-type: none"> 研究テーマを明確化し、研究計画書を作成することができる。修士論文の研究計画書を作成できる。 国内外の学会において、ポスターセッションと口述発表をすることができる。 	○	◎	○	◎		○
小児看護学対象論	<ol style="list-style-type: none"> 小児看護の理論的枠組みについて説明することができる。 子どもの成長発達理論について説明することができる。 成長発達理論をふまえて、看護実践に必要なアセスメントができる。 子ども虐待の現状と必要なケアについて説明することができる。 援助理論の実践・研究について理解し、小児看護の実践に活かすことができる。 	◎		○			○
小児看護学援助論	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ子どもと家族へのトータルケアについて説明できる。 健康問題をもつ子どもと家族への援助について説明できる。 健康問題をもつ子どもと家族へのソーシャルサポートについて説明できる。 健康問題をもつ子どもと家族のニーズに沿った看護を実践することができる。 	◎		○			○
小児看護学特論 I	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患、先天性疾患や障がいのある小児の小児期から青年期、成人期への移行期における看護について説明することができる。 慢性疾患、先天性疾患や障がいのある小児と家族への看護について説明することができる。 	○	◎	○	◎		○
小児看護学特論 II	<ol style="list-style-type: none"> 小児看護学研究の意義と方法を理解する。 小児看護学領域における文献購読を通して、小児子どもとその家族への看護実践方法・研究方法について考察する。 小児看護学研究の動向を理解し、課題を検討する。 小児看護学領域における自己の研究課題を明確にする。 	○	◎	○	◎		○

	到達目標	DP1		DP2		DP3	
		知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
老年看護学特論Ⅰ	1. 老年看護実践に必要な諸理論について説明できる。 2. 老年看護学における倫理的思考の意義と看護実践について説明できる。 3. 老人看護専門看護師の役割と機能について説明できる。	◎	○	○		○	○
老年看護学特論Ⅱ	1. 高齢者の包括的アセスメントの意義と特徴について説明できる。 2. 高齢者の包括的アセスメントに必要な評価ツールについて活用とその留意点を説明できる。 3. 高齢者の包括的アセスメントの結果に基づき、高齢者にとって望ましい生活を支える看護について提案できる。	○	◎	○	◎	○	○
老年医学特論	1. 加齢に伴う身体的・生理学的変化と特徴について説明できる。 2. 高齢期に多く見られる疾患の病態、症状・徴候、診断と治療について説明できる。 3. 高齢者に対する薬物療法の原則と留意点について説明できる。 4. 高齢者の運動機能の評価とリハビリテーション治療について説明できる。 5. 複雑な健康問題をもつ高齢者に対し、自立支援・生活支援の視点から治療方法のあり方を判断するとともに、自立支援・生活支援に向けた看護実践方法について提案できる。	◎	◎	○	◎	○	○
老年看護学特論Ⅲ	1. 現代社会における家族形態および家族機能の変化と課題、看護ニーズについて説明できる。 2. 健康問題をもつ高齢者と家族の関係を理解するための諸理論とアセスメント方法の活用について説明できる。 3. 複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の抱える問題に対し、老年看護、倫理的判断、調整の視点を踏まえた高度な看護実践を提案できる。	◎	○	○	◎	○	○
老年看護学特論Ⅳ	1. 日本の高齢者保健医療福祉政策や法制度の動向を国際的視点を踏まえて説明できる。 2. 高齢者保健医療福祉政策や法制度、関連する研究の動向から、質の高い高齢者ケアの提供に向けたサポートシステム構築における課題について説明できる。 3. 高齢者の健康支援に関するサポートシステムの実際から、老人看護専門看護師としての役割を考察し説明できる。 4. 質の高い高齢者ケアの提供に向けた高齢者保健医療福祉政策やサポートシステム構築における老人看護専門看護師としての役割を理解し、今後の発展のあり方について具体的に説明できる。	◎	○	○	○	○	○
精神看護学対象論	1. ストレンクスモデルについて、説明することができる。 2. 精神障害者について、既習の学習内容と比較しながら、ストレンクスモデルの視点から説明することができる。 3. ストレンクスアセスメントを実践することができる。	◎	◎	○	○	○	○
精神看護学援助論	1. 精神障害者が「その人らしい生活」を送るために必要な支援について、説明することができる。 2. 精神障害者を取り巻く環境、制度、倫理的課題を説明することができる。 3. 精神障害者が地域で生活を維持するために必要な看護について説明することができる。 4. コンコーダンスの概念を理解し、コンコーダンス・スキルを活用することができる。	◎	◎	○	○	○	○
リエゾン精神看護	1. リエゾン精神看護の役割と機能について、説明することができる。 2. リエゾン精神看護の対象となる人々の課題について、説明することができる。 3. リエゾン精神看護の援助方法について、述べるができる。	◎	◎	○	○	◎	◎
精神看護学特論	1. 最新の情報を文献などから検索し、説明することができる。 2. 精神看護学に関連した自己の研究課題の研究動向について、説明することができる。 3. 精神看護学に関連した自己の研究課題の先行研究について、クリティークすることができる。 4. 精神看護学に関連した自己の研究課題を明らかにするための研究方法について、説明することができる。	◎	○	◎	◎	○	○
地域看護学対象論	1. コミュニティアズパートナーモデルを用いて、地域の健康関連情報を収集、分析できる。 2. 地域における健康課題と健康格差、健康の社会的決定要因の関連を説明できる。 3. 地域における健康課題を明確化し、介入すべき看護の方向性を提示できる。	◎	○	◎	○		
地域看護学援助論	1. 地域看護計画や介入に必要な理論やモデルを理解し、実際に用いることができる。 2. 地域看護学の将来展望を考察できる。	◎	○	◎	◎	○	○
地域保健学特論Ⅰ	地域における健康政策の意義を理解し、その策定に必要な基礎理論と技術を述べるができる。 地域における健康政策の策定、効果予測、選択、実施、評価などの一連のプロセスが説明できる。	◎		◎			

		到達目標	DP1		DP2		DP3	
			知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
	地域保健学特論Ⅱ	地域における健康調査の意義を理解し、それに必要な基礎理論と技術を説明することができる。 地域における健康調査方法の知識・技術を具体的な事例に応用できる。 健康に関する統計調査の企画から結果の検討までの一連のプロセスを示すことができる。 統計的手法を用いて、健康に関する調査データの基礎的な分析ができる。	◎	○	◎	○		
特別研究	看護学特別研究	専門領域に従って、研究テーマの明確化、テーマに応じた研究計画の立案、結果の分析と考察などの一連の研究プロセスに基づき、修士論文を作成できる。	◎	○	○	◎	◎	○

看護学専攻博士前期課程のディプロマ・ポリシー

- DP1 看護学に関する確かな専門的知識と深い学識を修得している。
- DP2 看護学における研究能力と創造的思考力を有している。
- DP3 広い視野をもち、人間性豊かで優れた看護を実践し、指導性を発揮できる。